

R3年12月10日(水)

テーマ：医療安全管理者養成研修

講師：中山 美代子 先生

和歌山県立医科大学附属病院

医療安全推進部 次長

場所：看護研修センター

参加者：45名



この研修会はオンデマンド研修 35時間、演習として集合研修 5時間を含む 40 時間の研修プログラムに基づいて開催され、当日は和歌山県看護協会に委託となった集合研修 5 時間の中で安全文化の醸成、患者・家族の医療への参加についての講義と演習が行われた。午前は講義を中心に、午後はインシデントアクシデント事例から RCA (事例要因分析) について個人ワーク、グループ討議が行われた。この研修を通して実践できることは何かを受講者それぞれの立場で学びとなった研修会だった。



R3年12月15日(水)

テーマ： 新人のための医療安全

講師： 山本 有美 先生 和歌山労災病院
医療安全管理者 看護師長

場所： 看護研修センター

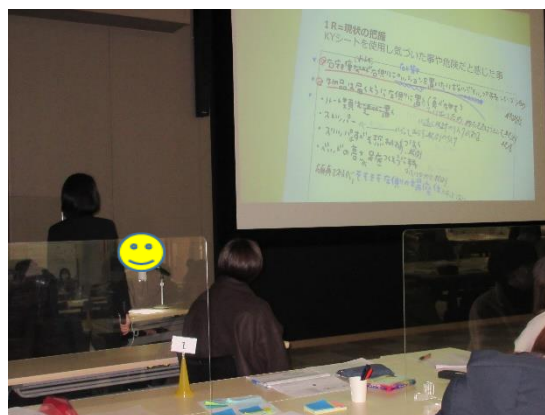
参加者： 69名

ねらい： 医療安全の基本的知識を学び、患者および自分を守る重要性を理解する。



講義とワークを交えての研修。
入職して8か月半、ワークにも
慣れてきた様子。

ワーク後は、書記された原稿
を OHC に映しながら、皆さ
んと共有した。



今回は、医療安全を考えるということも含めて、受講者に避難訓練をご協力いただいた。

その中で避難ということを考えられたでしょうか？

私たち看護協会も、より安全に皆さんに研修を受けていただけるための、いろいろな課題が見つげられた。

まずは避難するようなことがないように、そして万が一の時には、安全に確実に避難できるようにしたいと思う。

R3年12月16日(木)

テーマ： 看護職に求められる社会人基礎力とは

講師： 近藤 昭子 先生 聖マリアンナ医科大学東横病院
副院長・看護部長

場所： 看護研修センター

参加者： 47名(内17名Web参加)

ねらい：看護職に求められる社会人基礎力について理解を深める。
新人看護職員が育つ環境作りを実践の場で展開することができる。



新人やスタッフ教育で悩んだり困ったりして参加した方もおられ、真剣に講義を受けていました。

前後の座席の参加者とディスカッション、個別で発表する時間もあり、参加者で共有できた。



講義の内容は、自分自身の社会人基礎力を振り返り、新人やスタッフの教育を考えるよい機会になったのではないのでしょうか。

R3年12月22日(水)

テーマ：病院・在宅療養におけるがん・終末期症状マネジメント

講師：千葉 明美 先生 たぶせ在宅クリニック
がん性疼痛看護認定看護師

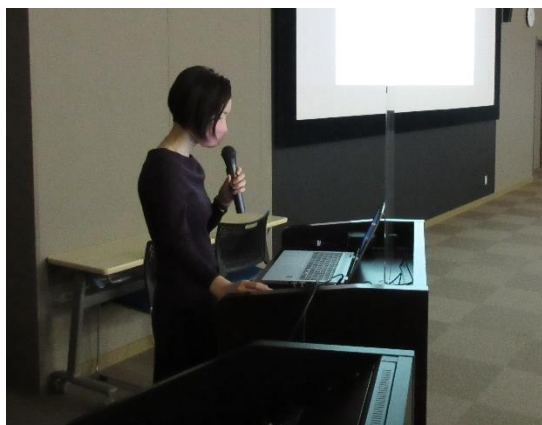
場所：看護研修センター

参加者：60名

ねらい：がん性疼痛コントロールの基礎を学ぶ

がん患者に起こりうる主な症状の対処方法とケアを学ぶ

在宅における症状マネジメントの実際を学ぶ



がん疼痛の評価や鎮痛剤の種類と使用など、わかりやすい説明だった。

家族へのケアや意思決定支援の重要性など終末期の問題についても体験談を交えてのお話があった。



在宅でのケアを経験だけでなく意味づけを持って伝えられる自信がついた。痛みのコントロールが理解できた。排便コントロールの重要性がわかったなど、アンケートには講師への感謝の言葉が多く、高評価の研修となりました。